

吉田病院 検査項目一覧

健康診断検査項目		受診内容の説明
身体計測(身長・体重)・肥満度		身長・体重を測定し、現在の状況を把握します。
腹囲		内臓脂肪症候群の診断に使われます。
尿検査(蛋白・糖・潜血)		陽性の場合には糖尿病・腎臓病・泌尿器系の疾患が疑われます。但し、蛋白は、過度の運動、入浴後などにもでることがあります。
視力検査		測定の変化は年齢や仕事内容、環境に大きく影響を受けます。
血圧測定		高血圧は動脈硬化を進行させ、生活習慣病を誘発することになります。
聴力検査(オーディオによる1000Hz・4000Hz)		測定の変化は年齢や仕事内容、環境に大きく影響を受けます。
胸部X線撮影(デジタル)		肺や心臓などの状態を観察する検査です。
医師の診察		既往歴、現病歴、自覚症状など聴打診します。
心電図検査		心臓に異常があるかどうかを調べるときに欠かせない検査です。
貧血検査	赤血球数(RBC)	値が低いと貧血症、高いと多血症が疑われます。
	白血球数(WBC)	炎症・感染などで増加し、極度に高いと白血病が疑われます。
	血色素量(Hb・ヘモグロビン)	値が低いと貧血症、高いと多血症が疑われます。
	ヘマトクリット(Ht)	血液に含まれる赤血球の割合を表します。値が低いと貧血症、高いと多血症が疑われます。
	血小板数(PLT)	出血を止める役割をし、低い値になると出血しやすくなります。
肝機能検査	AST(GOT)	肝・細胞・血液・筋などの障害を反映して上昇します。
	ALT(GPT)	肝細胞の障害を反映して上昇します。
	r-GT(r-GTP)	アルコール・薬剤などによる肝障害を反映して上昇します。
	総ビリルビン(T-BIL)	黄疸の程度を表し、肝障害が高度な時に上昇します。
	ALP	主に肝臓から胆汁中に排泄される酵素です。肝臓・胆管疾患で高くなります。
	LDH	体内のいろいろな臓器の障害を反映して上昇します。
	コリンエステラーゼ(ChE)	肝臓で作られる酵素の一つで、肝機能障害が有ると値が低下し、脂肪肝や脂質異常症で上昇します。
	総蛋白(TP)	血液に含まれるタンパク質の総量です。栄養障害で値が低下し、脱水が有ると上昇します。
	アルブミン(ALB)	血液中のタンパク質の一種で、栄養障害や肝機能障害、腎炎等で値が低下します。
	A/G比	タンパク質成分(アルブミン、グロブリン)の比率です。栄養障害や肝機能障害で値が低下します。
血中脂質検査	中性脂肪(TG)	血液中の脂質が多いと上昇し、運動不足・過栄養を反映します。
	HDL-コレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ血管内壁の掃除役を果たす作用があります。
	LDL-コレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、値が高いと動脈硬化やそれに伴う心疾患等に注意が必要です。
	総コレステロール(TC)	全てのコレステロールの総量を表します。高値が続くと動脈硬化の原因となります。
血糖検査	血糖(空腹時血糖)	血糖値を下げるインスリンが不足したり作用が不十分だと高い状態が続き、糖尿病を発症させます。
	HbA1C	1~2か月前の血糖のコントロール状態(平均血糖値)を知ることができます。
膵機能検査	血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺から出される消化酵素で、炎症があると上昇します。
	血清リパーゼ	膵臓に多く存在する酵素で、炎症があると上昇します。
腎機能検査	尿酸	血液中の尿酸の量。高値が継続すると痛風を起こす可能性があります。
	尿素窒素	尿から体外に排泄される成分で、腎障害の時に上昇します。
	クレアチニン	尿から体外に排泄される成分で、腎障害の時に上昇します。
	eGFR(推算糸球体濾過量)	どれくらい腎臓に老廃物を尿へ排出する能力が有るか示しており、値が低いと腎臓の機能が悪い恐れがあります。
眼底検査	片眼	眼底の毛細血管を見ることで動脈硬化などを見つけ出します。
大腸がん検査	便潜血(2日法)	便中に含まれる血液により、がん検査を行います。
腫瘍マーカー検査	CEA(癌胎児性抗原)	主に胃がんや大腸がんなどの消化器がん、乳がん、肺がん、膵臓がん等を調べます。
	PSA(前立腺特異抗原)	前立腺がんを調べます。
	Ca19-9	主に膵臓癌などの消化器がん、胆嚢がん、胆管がん等を調べます。
	AFP	主に肝臓がん(原発性、転移性、胎児性)、肝硬変、先天性胆道閉鎖症等を調べます。